



## 自分にとっての「大きな岩」とは

校長 藤森克彦

やわらかな日差しを浴びて、校庭の草木も春の訪れを待ちわびているようです。三寒四温とはよく言ったものです。暖かく過ごしやすい日は子どもたちもウキウキとした気分です。和やかに生活しているように思います。

さて、6年生にとって登校日は残すところ17日となりました。皆さんが歩んだ6年間の半分は新型コロナウイルスの影響で我慢を強いられることもありましたが、東京オリンピック・パラリンピック教育での体験的活動や品川GIGAスクール構想で一人1台タブレット端末を使いこなした学習など、この時代だからこそ貴重な経験も得ることができました。いよいよ4月から中学校生活が始まりますが、残り少ない小学校生活、いい思い出として記憶に残るエピソードを演じてほしいです。

ここで、6年生にはなむけの言葉の一つとして『大きな岩と小さな岩』という話を贈りたいと思います。

とある大学の授業でのこと、「クイズの時間だ」教授はそう言って大きな壺を取り出し教壇の上に置きました。そして、その壺がいっぱいになるまで一つ一つ岩を詰めて学生に聞きました。「この壺は満杯か？」学生は「はい」と答えました。「本当に？」そう言いながら教授は教壇の下からバケツいっぱいの砂利を取り出して、その砂利を壺の中に壺をゆすりながら流し込み、岩と岩との間を砂利で埋めていきました。そしてもう一度「この壺は満杯か？」と聞きました。学生はすぐに答えられませんでした。一人の学生が「多分違います」と答えました。教授は「そうだ」と笑いながら、今度は教壇の陰から砂の入ったバケツを取り出しました。そして、それを岩と砂利の隙間に流し込んだ後、三度目の質問を投げかけました。「この壺はこれでいっぱいになったか？」学生は「いや」と声をそろえて答えました。今度は水差しを取り出し、壺の縁までなみなみと注ぎました。「私が何を言いたいのか、わったか？」という教授の投げかけに、一人の学生がこう答えました。大きな岩でいっぱいに詰まったように見える壺であっても、小さな岩であればさらに詰め込むことができる、仕事や勉強も同じでちょっとした隙間の時間や努力も惜しまず続けることが大切であるという意味だと思います。

教授は「そういうことも言えなくはないが、私が言いたいこととは違うな」と答え、この壺の様子が暗示している意味を話しはじめました。大きな岩を先に入れない限り、それが入る余地は、そのあとだと二度とないということだ。さらに問いかけます。「あなたたちの人生にとって「大きな岩」とは何だ。それは勉強であったり、家族であったり、友情であったり、自分の夢であったり…。ここで言う「大きな岩」とは、あなたたちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れてなさい。さもないと、それを永遠に失うことになる」と。

例えば、壺の容積を自分の人生の持ち時間だと考えると、誰もが限られた時間しかもっていません。自分にとって大事でないもので無駄に埋めてしまうと、大事なものに割くべき時間を失ってしまいます。人生の中で目覚ましい成長を遂げる時期ならなおさらです。では、大事なことは何なのか、それはすぐには分からないかもしれませんが、意識することでだんだん見えてくるかもしれません。

これから始まる中学校生活、自分にとって先に入れなければならない「大きな岩」は何なのか、そんなことを考えながら、大きな一歩を踏み出してほしいと願っています。

## 「1年生と保育園児の交流会」

1年松組 片岡 菜月

1月19日(木)に滝王子保育園と緑の家保育園の園児との交流会を行いました。1年生は11月に、生活科「きせつとなかよし あき」の学習で、学校や公園などで秋探しをしました。見つけた木の実や落ち葉を使って遊ぶ中で「自分たちが作ったおもちゃで、たくさんの人に楽しんでもらいたい」という思いが生まれ、保育園の5歳児を招くこととなりました。準備では、12月に行われたフレンドまつりの経験を活かし、みんなが楽しめる工夫をたくさん取り入れました。交流会当日は「あきのおもちゃランド」と称し、いくつかの遊びブースに分かれて、1年生が遊び方を説明したり、一緒に遊んだりしました。

交流会後、1年生は「保育園の友達が笑顔で帰ってくれて嬉しかった」「優しくルール説明することができた」「1年前はお兄さんやお姉さんに遊んでもらっていたけど、今回は自分がお姉さんになって保育園のお友達に遊んであげることができた」「来年、保育園の子たちが入学するのが楽しみ」と話していました。

小学校の中では、最年少として可愛がってもらったり、お世話してもらったりすることが多かった1年生ですが、1年間の学びを経て、どの子もお兄さん、お姉さんらしく成長した姿が見られました。

### <マラカスコーナー>

紙コップにどんぐりを入れてマラカスを作りました。



### <射的コーナー>

まつぼっくりやどんぐりで的を作りました。



### <紙人形コーナー>

木の実を使った紙人形遊び。



### <どんぐり迷路コーナー>

遊び方を説明する様子。



## 市民科学習成果発表「二分の一成人式」

4年月組 廣瀬 裕貴

4年生は、2月18日(土)に「二分の一成人式」を行いました。この学習は市民科の「ありがとう」と「未来の自分に向かって」の単元のまとめとしてすすめてきました。

「ありがとう」の学習では、児童が産まれてから、これまでの10年間の出来事を振り返るために、小さい頃の写真を見たり、家族にインタビューをしたりする活動に取り組みました。はじめは、多くの児童が感謝の言葉を表現することに抵抗感がありました。しかし、学習を重ねる中で、日常生活にある当たり前だと感じていた多くのことが、自分の心を支えていたり、自分の生活を助けてもらっていたりしたことに気付くことができました。そして、その思いを感謝の言葉としてまとめました。

「未来の自分に向かって」の学習では、自身の成長やこれまで多くの方のお世話になったことをふまえて、将来の夢について考えました。「今自分が何をしたいのか」「夢や目標の実現のためには、どのようなことが必要なのか」について調べ、まとめました。

発表の前日準備では、教室を式にふさわしい環境にするために指示を待つのではなく、自ら考えて行動する姿が見られ、式を成功させたいという、みんなの強い思いや意欲を感じることができました。

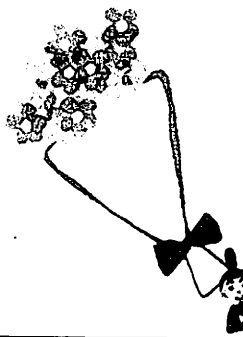
当日は、厳粛な雰囲気の中、式の運営を児童が行い、一人一人が全力でスピーチしたり、役割に徹したりしていました。参観いただいた保護者の皆様の協力もあり、スムーズに発表を終えることができました。

今回の発表を通して考えたり、学んだりした「感謝の気持ち」「夢や目標」というのは、今後の人生の活力につながります。もうすぐ5年生となる4年生です。一人一人が考えたり、学んだりしたことを心に留め、次は高学年として活躍してくれることを期待しています。

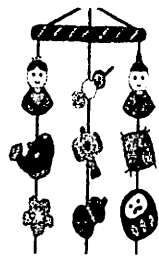
そして、一人一人の将来に向けて羽ばたけるよう願っています。



スピーチの様子



年間重点生活目標「大一ABCを身に付けよう」  
 今月の生活目標  
 生活のめあて 大一ABCをコンプリートしましょう  
 保健のめあて 手洗いとうがいをしましょう  
 給食のめあて 1年間の給食を振り返りましょう



## 3月の行事予定

※今月は予告なしの避難訓練を実施します。

日付	曜	主な行事	日付	曜	主な行事
1	水		18	土	
2	木		19	日	
3	金	卒業の集い(6年)	20	月	卒業式予行(5・6年)
4	土	スチューデントシティ(6年)	21	火	春分の日
5	日		22	水	給食終 卒業式前日準備(5年)
6	月	安全指導	23	木	卒業式(6年のみ登校)
7	火	放送朝会 社会科見学(4年)	24	金	修了式 午前授業(1~5年)
8	水	体育朝会(2・3・5年)	25	土	春季休業日始
9	木	体育朝会(1・4・6年)	26	日	
10	金	児童集会	27	月	
11	土		28	火	
12	日		29	水	
13	月	学期末個別学習①	30	木	
14	火	放送朝会卒業遠足(6年) 学期末個別学習②(1~5年)	31	金	
15	水	そろばん教室(3年)	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">           4月5日(水) 新年度入学式準備(新6年) 予定            4月6日(木) 始業式・入学式         </div>		
16	木	そろばん教室(3年) 学期末個別学習③(1~5年)			
17	金	音楽朝会そろばん教室(3年)			

## 「ルーコラム」**「かかわる・創る」**

6年担任 小池 絢子

6年生は3月23日(木)に卒業式を控えています。私は、「卒業式は小学生だった自分に区切りをつけて新たな一步を踏み出すためのもの」だと考えています。だからこそ、卒業式の中にある一つ一つの振る舞いに対して自分なりの思いを込めてほしいと思っています。呼名の時は「はい」という返事に、ここまで育ててくれた保護者の方や今まで温かく見守ってくださった方々へ感謝の気持ちをのせて伝えること。小学校生活で学んだことを心に刻みながら堂々と卒業証書を手にとること。気持ち一つで行動は大きく変わります。「祝い」と「別れ」が共にある人生のビッグイベントです。6年生がどんな卒業式を創り上げていくのか楽しみです。

## 生活指導の「新時代」を!

生活指導部 福本 千絵

3月は「大一ABC コンプリート」が目標になっています。ABCとは「A 当たり前前をB ばかにしないでCちゃんとやること」ですが、その「当たり前前の内容」とは何か...本校では5つ掲げています。「チャイムスタート」「机上のオールクリア」「最後まで聞く」など、よくできるようになってきた中で、達成にはまだまだ...と思うのが、「静かに廊下を歩くこと」です。学校生活を送るには「人の心身を傷つけない」ことが最も大切です。今年度も「廊下を歩くことは自分だけでなく、相手にもけがをさせることだからやめよう」と根気よく全教職員が指導してまいりました。わかっちゃいるけどやめられない...それが「つい廊下を走ってしまうこと」かもしれません。私が小学生の頃(かなり昔?)からずっと言われていることですが、時代は変わってもこれだけはなかなか変わらないようです。「大一ABC コンプリート」まであと一步。ぜひ、今まで変わらなかったことを変えてほしい!大一小の皆さんが「新時代」をつくることを大いに期待しています。